

授業科目名	芸術文化・観光プロジェクト実習 4	担当教員	大社充 池田千恵子 近藤のぞみ 小林瑠音 野津直樹 深澤南土実 河村竜也 中村敏 岡元ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	4年第2クォーター		
講義内容	<p>芸術文化・観光プロジェクト実習 4は、芸術文化と観光の双方の視点から芸術文化に磨きをかけ、それを観光に生かすことで地域活力の創出につながる実践能力を養う実習である。本プロジェクトに求められる能力は、演劇祭などの舞台芸術を観光のコンテンツとして活用することだけではない。この能力には、観光の視点に立って新たな芸術作品や企画を生み出す創造力も含まれる。これまでの実習経験から得られた構想をもとに、実習 4では自らの関心と強みを生かし、芸術文化と観光の双方の視点を生かした新たな企画を実現するために、学生主体の実習を行う。</p>		
到達目標	<p>① 芸術文化と観光の双方の視点を生かし、実現可能な企画を考案することができる。</p> <p>② フェスティバルを担う様々な職種の中から、自らのこれまでの学修、関心と強みをベースに将来のキャリアイメージを描くことができる。</p>		
授業計画	<p>実習前の事前学習：個別もしくはチームで作成した企画内容について、芸術文化分野および観光分野の複数の専任教員による助言指導を受けながら、その運営・実施に向けて綿密な計画を立てる。</p> <p>実習中：実習指導者、実習施設職員および専任教員による助言指導を受けながら、企画を運営・実施する。いずれの企画にも、芸術文化分野および観光分野双方の専任教員が指導し、各企画が、芸術文化と観光との相互作用から新たな価値を生み、それを地域経営に活かせるように、学生を導く。</p> <p>中間時点および最終日には、芸術文化と観光の双方の視点から学生による報告会を実施し、各企画間の情報共有を行う。また、演劇祭主催者や地域住民、他のボランティアとの意見交換会を実施する。</p> <p>実習後：研修報告書を作成し、実習で得た経験と知識を総括し、地域社会へ向けて芸術文化と観光の双方の視点から新たな企画提案ができるよう、専任教員による助言・指導を行う。これにより、芸術文化と観光を結びつけたプロジェクトが、コミュニティ再生と経済活性化に寄与する新たな地域システムづくりを、具体的に提案できるようにする。</p>		
事前・事後学習	実習計画の作成、実習日報の記録をふまえて中間・最終報告を行う。		
テキスト	特になし		
参考文献	授業内で適宜紹介する。		
成績評価の基準	実習の態度・日誌（70%）、実習報告レポート・プレゼン（30%）		

履修上の注意 履修要件	芸術文化・観光プロジェクト実習2を履修済みであること。 芸術文化・観光プロジェクト実習3も合わせて履修するのが望ましい。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	